高等学校学習指導要領改訂における 科目「体育」(入学年次の次の年次以降) 学習評価の事例研究について

令和6年3月

令和5年度県立高等学校教育課程課題研究 「保健体育研究班」

目 次

「指導と評価の計画」に基づく学習評価の事例研究

科目「体育」【入学年次の次の年次以降】

	В	器械	運]動	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1
	С	陸上	競	技	•	•	•	•	•	•	•	•	•			•	•	•	•				-	9
	D	水泳	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•			•	•	•	•				-	1 9
	F	武道	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•			•	•	•	•				•	2 5
参	考:	文献	•	•		•	•	•	•	•	•	•	•			•	•							3 1
班	員:	名簿																						3 2

学習評価は、「生徒にどのような力が身に付いたか」という学習の成果を的確に 捉え、私たち教師が指導の改善を図るとともに、生徒自身が自らの学習を振り 返って次の学習に向かうことができるようにするためのものであり、教育課程や 学習・指導方法の改善と一貫性のある取組を進めることが求められています。

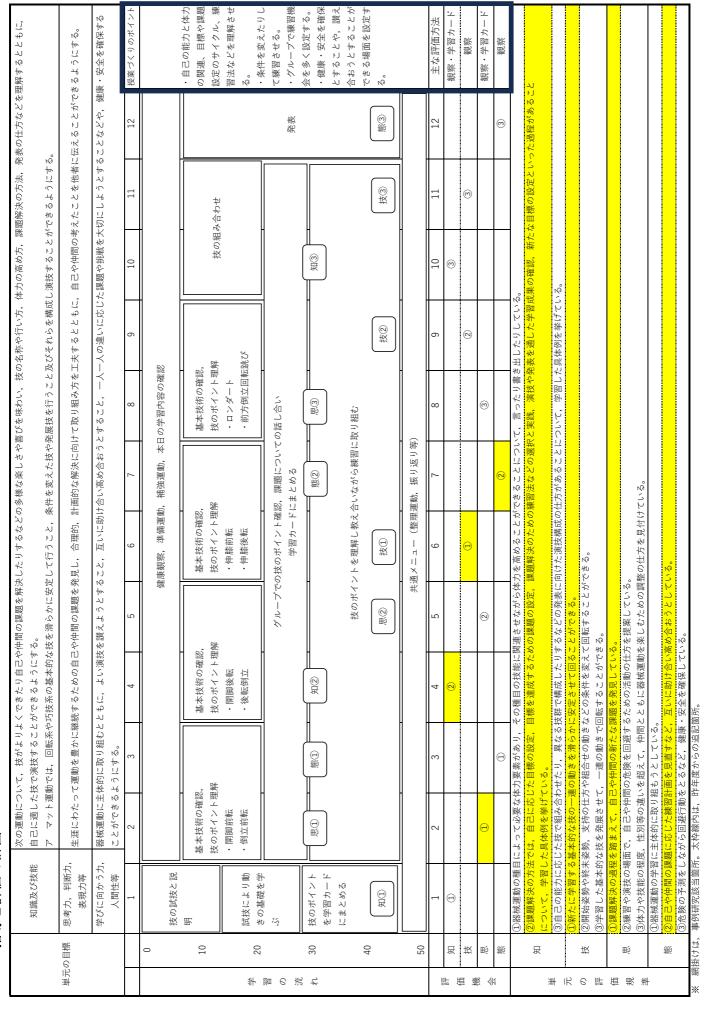
新しい学習指導要領が年次進行で実施されて、今年度で2年目を迎えました。 学習評価については、令和元年6月に国立教育政策研究所から『学習評価の 在り方ハンドブック』や令和3年8月に『「指導と評価の一体化」のための学習 評価に関する参考資料高等学校保健体育』が発行されています。

また、県教育委員会からも様々な通知や手引き、研究発表等で評価方法について発信されていますが、各学校におかれましては、実際の学習評価に苦慮している現状があると推察いたします。

本研究において、昨年度に実施された学習評価に関する研究を継続し、より具体的な授業内容や評価方法の事例を示すことで、各学校が適切な授業や学習評価の一助となることを願っています。

【B器械運動】

指導と評価の計画



2 指導と評価の具体例

(1) 「知識」を学習カードから評価する

評価規準 知識②

課題解決の方法では、自己に応じた目標の設定、目標を達成するための課題の設定、課題解決のための練習法などの選択と実践、演技や発表を通した学習成果の確認、新たな目標の設定といった過程があることについて、学習した具体例を挙げている。

実現状況	判断の目安	生徒の回答例
	課題解決では目標と課題の設	・後転の勢いをつけられるような
	定,練習法,成果の確認,新たな目	練習方法を選択し、他者の観察
	標設定といった過程があることに	などで出来栄えを確認してい
	ついて、学習した内容を具体的に	る。また、後転倒立ではタイミ
	記述している。	ングよく肘を伸ばして体を持
1. 八澤 日		ち上げることを次の目標とし
十分満足 (A)		ている。
(A)		・後転倒立では後転の勢いを保ち
		ながら,足を真上に蹴り上げ,
		タイミングよく肘を伸ばすこと
		ができる。倒立した瞬間から顎
		を上げ、床をしっかり見ること
		ができている。
	課題解決では目標と課題の設	・後転倒立では、回転後の倒立が
	定,練習法,成果の確認,新たな目	不安定なので、タイミングを合
おおむね満足	標設定といった過程があることに	わせられるように工夫してお
(B)	ついて,学習した内容を記述して	り、安定しはじめてから一連の
(B)	いる。	動きを練習している。
		・後転倒立では足を真上に蹴り上
		げ、肘を伸ばすことができる。
	課題解決の過程について、学習	・後転倒立ができるように練習し
努力を要する	した内容を記述していない。	ている。
(C)		・後転の途中に倒立をする。肘を
		伸ばすようにしている。

(2) 「技能」を観察から評価する

評価規準 技能①

新たに学習する基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて回ることができる。

	<u> </u>	
実現状況	判断の目安	生徒の状況
	学習した全ての技について, 一	・伸膝前転、伸膝後転のどちらも
	連の動きをより滑らかに安定させ	立ち上がるまで滑らかに安定し
十分満足	て回ることができる。	てできる。
, , , , , , ,		・伸膝前転は足を前に投げ出して
(A)		勢いをつけて前屈して立ち上が
		るまで滑らかに安定してでき
		る。
	学習した技について、技の一連	・伸膝前転又は伸膝後転で滑らか
ナンナットの注目	の動きを滑らかに安定させて回る	に安定して回ることができる。
おおむね満足	ことができる。	・伸膝前転又は伸膝後転で勢いよ
(B)		く回転した後、立ち上がること
		ができる。
努力を要する	学習した技について, 技の一連	・伸膝前転, 伸膝後転の動きが安
(C)	の動きができない。	定していない。またはできない。

(3) 「思考・判断・表現」を学習カードから評価する

評価規準 思考・判断・表現①

課題解決の過程を踏まえて、自己や仲間の新たな課題を発見している。

実現状況	判断の目安	生徒の回答例
	課題解決の過程を踏まえて,自	・開脚前転では勢いよく回ること
	己や多くの仲間の新たな課題を,	を意識すると膝が曲がってしま
	適切に発見することができる。	うため,膝が伸びているけれど
		勢いがなく立ち上がれていない
十分満足		仲間と一緒に練習し、お互いの
一 一		課題を克服する。
(A)		・開脚前転は、足先を振り下ろし
		ながら開くことで今より回転力
		が上がり、スムーズに立ち上が
		ることができる。

	課題解決の過程を踏まえて、自	・開脚前転で勢いよく回れるよう
	己や仲間の新たな課題を発見する	になったが、開脚の時に膝が曲
おおかね満足	ことができる。	がってしまうことが課題であ
, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,		る。
(B)		・開脚前転は、勢い不足で立ち上
		がれていないので,回転力を上
		げる。
努力を要する	自己や仲間の新たな課題を発見	・開脚前転は膝を伸ばす。
(C)	することができない。	・開脚前転は速く回転する。

(4) 「主体的に学習に取り組む態度」を観察から評価する

評価規準 主体的に学習に取り組む態度②

自己や仲間の課題に応じた練習計画を見直すなど, 互いに助け合い高め合おうとしている。

実現状況	判断の目安	生徒の状況
	課題に応じた練習計画を何度も	・何度も仲間の練習を観察してア
	見直すなど、繰り返し互いに助け	ドバイスするなど、協力して新
	合い高め合おうとしている。	たな練習法を考えたりしてい
十分満足		る。
一		・繰り返し仲間と学習カードを確
(A)		認しながら,意識している点,
		失敗が多い点を確認して, 改善
		点をお互いに話し合い,次の練
		習方法等を決めている。
	課題に応じた練習計画を見直す	・仲間への声掛けやアドバイスな
	など、互いに助け合い高め合おう	どを行っている。
おおむね満足	としている。	・学習カードを確認しながら、練
(B)		習内容でできたこと、できなか
		ったことを確認して教え合い,
		次に生かそうとしている。
努力を要する	課題に応じた練習計画を見直す	・練習計画を見直さない。
(C)	ことや、互いに助け合い高め合う	・互いに助け合うことができてい
(0)	ことができない。	ない。

3 考察

今回の授業計画案において知識②を評価するのは計画全体の4時間目にあたり,3つ目と4つ目の技を習得する時間である。すでにグループワークを2,3時間目に実施しているため目標や課題の設定,実践や成果の確認は授業内の取組の中で理解できる段階にあると考えられる。毎時間学習カードを活用するため,評価方法は学習カードの記述内容から見取ることになる。2,3時間目の授業を踏まえて,課題解決の過程を理解した取り組みができているかを評価し,(B)となる回答は課題解決の過程を理解し,それを踏まえた記述があるが具体性に欠けるものとし,より具体的な記述がある回答を(A)にすることが考えられる。したがって,(C)となる回答は課題解決の過程を踏まえた記述がないものと考えることが適当である。自己及び他者の技能の確認,グループでの課題解決のか対話及び練習,これらの振り返りという一連の授業の流れの中での学びの成果が具体的に記述できるかが(A)のポイントとなる。

【質問例・回答例と評価の目安】

質問:課題を解決するための練習方法や次の課題の設定方法などについて、学んだこと からどのように練習したかを書き出してみよう。(課題設定から練習、次の課題ま での流れを具体的に記述する)

回答

- (A): 開脚後転では後転の勢いが足りなかったのでそこを課題として、ゆりかごのような動きで繰り返し練習した。グループの人に見てもらって勢いがつけられるようになってきてから技の練習をした。次に、全体の出来映えが良くなるように、始めや終わりに膝が曲がっていないかなどを見てもらいながら、姿勢を意識して全体の練習をした。
- (B):後転の勢いが課題なのでその練習をした。友達にできているか見てもらって、できていたので次に技全体の練習をした。技全体の練習も友達に見てもらった。
- (C): 始めは開脚後転ができなかったけど、練習したらできるようになった。

上記質問例では、質問以下のような回答例が予想される。質問については、評価規準に沿った、できるだけ具体的な内容であることが、期待する回答を導くことにつながるのではないかと考えられる。また、回答は語彙や表現の仕方に違いがあることを踏まえて判断の目安に当てはまるものを見取る必要があるため、見取り方によって評価に差が出ることが懸念される。したがって、より明確な判断の目安を作成しておく必要があると考えられる。

技能①の評価は、全体の6時間目に伸膝前転と伸膝後転を観察により評価する。これらの技は、柔軟性などの違いにより出来栄えに差が出ることがある。生徒によっては難易度が高く、特に伸膝前転は苦手とする生徒が多い傾向があり、母集団の能力の違いもあるが、

(A) の判断の目安に到達できる生徒はそれほど多くないと考えられる。しかし、それまでの時間で培った課題解決の方法を応用して練習に取り組むことで、少しずつ課題を解決し、技を習得することが可能であるため、技の完成度が高くなくても、一定の評価ができる生徒は増えることが期待できる。本研究では、「学習した全ての技について、一連の動きをより滑らかに安定させて回ることができる。」を(A)の判断の目安としたが、(A)に到達する生徒が少なかったため、目標や評価規準を見直さなければならないと感じた。改善するためには、(A) の判断の目安を緩和することが適当であると考えられる。

思考・判断・表現①は器械運動 2 時間目の授業であり、前時で学習した基本技術と技のポイントを生かしながら練習する初めての時間である。開脚前転と倒立前転は入学年次にも行っているため、復習をしながら技能を高めていく時間となった。その中で、できる生徒とできない生徒がお互いを観察し合いながら、「何が良くて何が良くないのか」「できる生徒の共通点は何か」「できない生徒はどこを修正したらよいのか」「できる生徒は何を改善したらよりよくなるのか」などの視点で観察させ、グループでの話し合いを促した。その後、グループで話し合ったことを踏まえて学習カードに振り返りを記入させることで、改善のための手だてについて考えさせた。この評価で重要な点は、「課題解決の過程を踏まえていること」と「新たな課題」である。(B)は、その2つの点を踏まえており、自他双方の意見が記入できている状況であると考えられる。(A)は、(B)に加えて適切で具体的な記述があるかどうかで判断することができる。(C)は、課題が発見できていない場合とすることが適当であると考えた。

【学習カードの回答例】

(A): 開脚前転で起き上がれない人は柔軟性がないだけでなく,起き上がる時に頭が押し込めず上体があがってしまっていた。手をつく位置を体に近づけ,頭を股の下に入れる感覚で頭を押し込むとできるのではないかと思った。また,そのためには足を開くタイミングを遅らせると押し込みやすいというアドバイスをもらった。

倒立前転では倒立姿勢が維持できずに回転に入ってしまう。話し合いでは、友達から倒立時にマットを見ていないとの指摘を受けた。その点を意識し、顎を上げてマットを見るように気を付けると少し維持できるような気がした。倒立姿勢が維持できている人は足を揃えるところまで気を配っているように感じたので、次回はその点に注意して練習する。

(B): 開脚前転で起き上がれない人は柔軟性が足りない。また、上体が上がってずっと前を見てしまっているので、最後にもっと手をついたところを見てマットを押した方が良い。

倒立前転では倒立姿勢が維持できない。マットを見ていないという指摘を受けた ので、次回は意識して練習する。

(C): 開脚前転で起き上がれない人は膝が曲がって柔軟性がない。 倒立前転で倒立姿勢が維持できないので、次回はできるようにがんばる。 本研究で実施した、主体的に学習に取り組む態度の評価方法は観察である。新たに習得する技なので、2時間目の練習でもできない生徒は多かった。そのような状況の中で、グループで話し合いながら練習し、練習計画を見直しながらお互いに高め合う姿が見られるかを7時間目で観察し、評価した。自ら積極的に練習に取り組むだけでなく、仲間の補助を行ったり、仲間への課題を指摘したりしている姿が見られれば(B)とした。(A)は、何度も練習計画を見直し、繰り返し仲間の補助や課題について指摘している姿が見られた場合とした。(C)は自分の練習しかしない、仲間を補助する姿が見られない、仲間と話し合って練習計画を見直そうとしないなどの場合とすることが適当であると考えた。

4 研究の成果と課題

一番の成果は、グループワークの有効性を確認できたことである。授業を効果的な学習活動にするための工夫であるグループワークは、「思考力・判断力・表現力等」や「学びに向かう力、人間性等」の育成に有効であることが明らかになった。グループワークの中で、他者と協働する場面が増えたことにより、発言や行動、記述の内容にそれらのことを見取ることができるようになった。また、知識の習得により、グループワークが活発になり、さらなる知識の定着を加速させることも考えられるため、知識の習得にも良い影響を及ぼしたと考えられる。さらに、技能以外の資質・能力は技能の習得に重要な要素であるため、全ての資質・能力をバランスよく育むことが大切であることがわかった。

今後の課題は、グループワークの際に、ほとんどの生徒が活発に活動することが予想されるため、主体的に学習に取り組む態度の評価規準を見直す必要があると考える。このこと以外についても、より適切な学習評価のためには、さらなる研究を継続する必要があると強く感じた。

【C陸上競技】

	競技会の仕方
	課題解決の方法,
	体力の高め方,
	技術の名称や行い方、
	向上や競争及び自己や仲間の課題を解決するなどの多様な楽しさや喜びを味わい,
	次の運動について, 記録の
算と評価の計画	
指導	
_	

			次の運動につ	次の運動について、記録の向上や競争及び自己や仲間の言	や競争及び自己さ	今仲間の課題を解決するな.	夬するなどの多様 ね	どの多様な楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、	味わい、技術の名	称や行い方、体力	1の高め方,課題	はおの方法, 競技会	競技会の仕方などを理解
		知識及び技能	するとともに,	こ,各種目特有の技	各種目特有の技能を身に付けることがで	ことができるようにす	No.						
			ア 短距離走	短距離走・リレーでは,中	中間走の高いスピードを維持して速く走	- ドを維持して速・	1)	とやバトンの受渡しで次走者と前走者の距離を長くする	者と前走者の距離	を長くすることか	ことができるようにする。	° 0	
単元	単元の目標	思考力, 判断力,	生涯にわたっ	生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間	統するための自己	3や仲間の課題を発見	し, 合理的,	計画的な解決に向けて取り組み方を工夫すると	けて取り組み方を	工夫するとともに,	., 自己や仲間の考えたこ	きえたことを他者に伝え	こ伝えることができ
		表現力等	るようにする。	2°									
		学びに向かう力, 人間性等	陸上競技に主 に応じた課題	陸上競技に主体的に取り組むとともに,勝敗などを冷静 に応じた課題や挑戦を大切にしようとすることなどや,	:ともに,勝敗などを冷 :ようとすることなどや,	ごを冷静に受け止め, いどや,健康・安全を	ルールや 確保する	マナーを大切にしよう. ことができるようにす.	とすること,る。	役割を積極的に引き受	受け自己の責任を果たそ	うとするこ	と, 一人一人の違い
		1	2	3	4	22	9	7	8	6	10	11	授業づくりのポイント
	0					健康観察,	準備運動,	補強運動					
													・必要な体力要素を
	;		グループワー	熊①		動き作り・************************************	本時の学習	動き作り(ペア)	(,	動き作り(ペア)	<u> </u>		理解し、知識と技能
	10	本時の学習	7) 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	中口戦闘	内容の確認	・前時までの課題を確認しなが、	を確認しなが	前時までの課題を確認して自	・確認した自	リアー総合練習	を関連付けて運動の
		内容の確認	【短距離走】	クルーン・ノーク・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ク【短距離床】	・解決に有効な練習を選択して実施	- 11	○ 課題解決に有効な練習をふ した	必な薬型めん まで ない ない ない ない ない ない ない ない ない な	この課題解決に有効な練習をよった選択して実在する	国効な薬型や言格セイ	(ペア) ・ぷっぱ ・ぷっぱ	技能を高められるよ
			・四山公を・金米マの甲	・ 走りと 凱さ作り を 渕連らむ アク亜的 か軒さな 女野 十2	ンを実連ら付いな米をサース		ペアワーク・部技パープの確認		ı		- 1	・ペアでお互この課題を	
胀	00	和①	高直に決勝め、本の共布	(権やに) 世口)	2 × × × × × × × × × × × × × × × × × × ×	100m走計測	・運営の仕方や役割	(#(3)	接②	(E)		大有して協	・自己やグループの
- R	07	100m 走計測	·ICT活用			・ペアら行う・ロコドト・	の確認	メトンパス練習 (ペア)	(ペプ)	バトンパス練習	(ペイ)	カレて行う	課題について、課題
I 6		・自己把握				・自己に応した 目標の設定		・課題解決のための練習をペ	り練習をペ	・課題の確認(両走者がスピードにの	着がスピードにの		解決のための練習方
) H		・ ブー ブ 編認・ 譲				知③		アで話し合いながら行う	がら行う	り配を伸ばした状態で受援す)・課題の分析と解決	気で皮膜す)		法を提示し、選択す
₹ 4	30	全日で 圧力,役割確認	中間半か行う	新さ作り 行品解井	1 世十二	ユ	200m (ペア)	・課題の確認(最も速く走るこ	も速く走ること	·ICT活用			る機会を設ける。
4r	}		大調佐で1])	がなべ イエン (権)		ペアワーク	リアー中選	ができるペース配分に応じて動	配分に応じて動			200 m	・ICTを用いて客観
		知②	・「ためノボーなり確認	- ・ 名楽した凱ざ作りの実践 - ***********************************	よりの実践	・1回目との違いを 中心に話し合う	・ヘアの現状古蹟・課題の整理	きを切り替える)				(E %)	的に練習実践の評価
		大冊の描い返り	·ICT活用	・ 危険を回避するための活動の	5ための活動の					本時の糖り液り		ことに	いた 一人 がった 国本 大力 日本 一一 新た か 日
	6	・自己課題の発		「江方を振来する						十二、シャングングラー・シャンクロー・ファンクロー・ファン	単	(()	
	9	見,整理)#(S)	本時の振り返り・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	本時の振り返り・ペアの議園の発見。	本時の振り返り				原(4)	係分段によれ、土谷れに実践に関これ
		・パーケ調器				・子首/00米の唯応・新たな目標の設定	整理	ペアの課題の発見,	, 整理			本時の指言語言	型に 予知 に 思り 粗め
			本時の振り返り	単き世子出土	本時の振りでは・数田温制		・競技ルールの調整					特単画製	るようにする。
	20	整理運動	·整理運動	- - - - - - - - - - - - - -	: ひ・ 歪 年 連 副	整理運動	整理運動	整理運動	運動	整理運動	運動	(新)	
ij		1	2	3	4	22	9	7	8	6	10	11	主な評価方法
計 [田	(I)(S)				®	3						観察
₫ :	枚		(-)						(2)		<u>(E)</u>		観察
影 .	₽Ę		(1)		(2)			<u>®</u>				(4)	観察、ワークシート
(H	瓢)	(I))	(2))		(E)		(4)	ワークシー
	į	①陸上競技の運動	種目によって必	①陸上競技の運動種目によって必要な体力要素があり、その運動種目の技能に関連させながら体力を高めることができるこ	り,その運動種目	の技能に関連させ	-ながら体力を高め	うることができるこ	ことについて, 学	とについて、学習した具体例を挙げている。	げている。)	
	廿	②競技会や記録会	で, 競技のルー	②競技会や記録会で、競技のルール、運営の仕方や役割に応じた行動の仕方、	役割に応じた行動		全員が楽しむためのルール等の調整の仕方などがあることについて、	/等の調整の仕方な	すどがあることに ・		ったり書き出したりしている	いる。	
	₹	③課題解決の方法	には,自己に応	③課題解決の方法には,自己に応じた目標の設定,	目標を達成するた	め課題の設定,請	目標を達成するため課題の設定,課題解決のための練習方法などの選択と実践,	東智方法などの選 数	Rと実践, 記録会;	記録会などを通した学習成果の確認、新たな目標の設定と	成果の確認, 新た	な目標の設定と	
洲		いった過程がある。	<u> </u>		る。 ドバイイロチ 技芸		!! 	· + / + / + / - 美 - / - / - / - / - / - / - / - / - / - /	1				
比	#	J高いストートを維持して近る中国店では、 ②青井油イギタトアの女メスペート目分には	- 希おしこ所の子アミルルル		今の具「近くにほか被弱したり、「ごと性をなる」、	ここと、キシンロストンボル	ナックしに圧を来半く則に連んだり タ るなとの馴さ C.たるなまぇ	- 埋んたりゅるばく	·J	とができる。			
6	χ X	(S) フーイは **	ここめてするベース部分に応い 大きな利得距離を得るために	今能がにがって製	、	らう アンドスのの 十七二 暦を年	このの。 シに筋を伸げした状態をベトンを海中トイだんが	ンを海すアメが	S # K				
計					100mmによった。 分析して良い点や	<u>/, // // // // // // // // // 修正点を指摘して</u>	13 C C 1850 C C 1850 C C C C C C C C C C C C C C C C C C C	\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \					
自	B.	②無がこれた事がほ日に ここの練習や競技会の場面で,		、、 ロー、IF的で動きでかいして込むボッドルボニョョョウンで、。 自己や仲間の危険を回避するための活動の仕方を提案している。	が!! ひこべ、		9,00						
#	á	③体力や技能の程	度,性別等の違	③体力や技能の程度,性別等の違いを超えて仲間とともに陸上競技を楽しむための調整の仕方を見付けている	ともに陸上競技を	楽しむための調整	その仕方を見付けて	こいる。					
火 淮		4陸上競技の学習	成果を踏まえて	④陸上競技の学習成果を踏まえて,自己に適した「する,	する, みる, 支える,		知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を見付けている。	こって楽しむための	の関わり方を見付い	けている。			
#		(1)陸上競技の学習() () ()	に主体的に取ります。	①陸上競技の学習に主体的に取り組もうとしている。									
	颛	②一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしる一人の事がにいては課題や挑戦を大切にしる。※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※	に応じた課題を引き申げ申げの	②一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしよっとしている。③役割を稽極的に引き受け自己の書任を果たタッとしている。	ようとしている。 アレイいる								
		③ Q 記さればいることでは、(1) (1) (1) (2) (2) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	に受け止め、ル	(1) はいかい (1) アールやマナーを大	こので、w。 大切にしょうとしている。	58°							
※	網掛けは,		「。 太枠線内は,	事例研究該当箇所。太枠線内は,昨年度からの追記箇所。	箇所。								7

2 指導と評価の具体例

(1) 「知識」を観察から評価する

評価規準 知識③

課題解決の方法には、自己に応じた目標の設定、目標を達成するため課題の設定、課題解決のための練習方法などの選択と実践、記録会などを通した学習成果の確認、新たな目標の設定といった過程があることについて、具体例を挙げている。

実現状況	判断の目安	生徒の発言例
	課題解決の方法には、目標や課	・初回授業でのタイム計測から、
	題の設定、方法の選択や実践、学	スタートで上手く加速できない
	習会の成果の確認や新たな目標の	ことが分かったので、前傾を保
十分満足	設定といった過程があることにつ	って加速することを意識して練
(A)	いて、理由や効果も含め、具体例	習を行った。その結果、スター
(A)	を挙げ発言している。	トから中間走までを滑らかに走
		ることができるようになり全体
		のタイムを上げることができ
		た。
	課題解決の方法には、目標や課	・スタートからの加速を意識して
	題の設定、方法の選択や実践、学	練習をすることでタイムを上げ
おおむね満足	習会の成果の確認や新たな目標の	ることができた。
(B)	設定といった過程があることにつ	・動きづくりで練習したことを意
	いて、発言している。	識した結果、タイムを上げるこ
		とができた。
	課題解決の方法には、目標や課	・前よりも速く走れるようになっ
	題の設定、方法の選択や実践、学	てきた。
 努力を要する	習会の成果の確認や新たな目標の	スタートを意識した。
(C)	設定といった過程があることにつ	○○さんに負けた。
(0)	いて、指導者の支援を借りながら	
	発言している。又は,発言できて	
	いない。	

(2) 「技能」を観察及び ICT 機器による観察から評価する

評価規準 技能③

リレーでは、大きな利得距離を得るために、両走者がスピードにのり、十分に腕を伸ば した状態でバトンを渡すことができる。

実現状況	判断の目安	生徒の状況
	両走者がスピードにのり、腕を	・両走者が十分にスピードにのっ
十分満足	伸ばした状態で、滑らかにバトン	た状態で、最大限の利得距離を
(A)	を渡すことが何度もできる。	得たバトンパスを複数回行うこ
		とができている。
	両走者が腕を伸ばした状態でバ	・次走者がスタートしたタイミン
	トンを渡すことができる。	グに合わせ、前走者が大きな利
ナッナット。か、井口		得距離を得るようにスピードを
おおむね満足		調整してバトンを渡している。
(B)		・前走者との距離に応じて、次走
		者がスピードを調整してバトン
		を受けている。
	両走者が腕を伸ばした状態でバ	・次走者と前走者の利得距離が長
	トンを渡すことができていない。	くとれず、詰まった状態でのバ
努力を要する		トンパスになっている。
(C)		・次走者のスタートのタイミング
		が早く,バトンが受け渡せてい
		ない。

(3) 「思考・判断・表現」を観察・ワークシートから評価する

評価規準 思考・判断・表現③

体力や技能の程度、性別等の違いを超えて仲間とともに陸上競技を楽しむための調整 の仕方を見付けている。

実現状況	判断の目安	生徒の回答例
	体力や技能の程度、性別等の違	・自他の課題を適切に分析し、解
	いを超えて仲間とともに楽しむた	決するために有効な練習方法を
	めの調整の仕方を具体的に提案	具体的に考えることができてい
	し、その振り返りから更に修正を	る。
十分満足	図ることができている。	・短距離走の記録などから走る順
(A)		番を考えたり、バトンパスの方
		法、マークの位置を工夫したり
		するなど、より効率的なバトン
		パスについて具体的に記述する
		ことができている。

	体力や技能の程度、性別等の違	・自他の課題を分析し、解決する
	いを超えて仲間とともに楽しむた	ための練習方法を考えることが
おおむね満足	めの調整の仕方を提案している。	できている。
(B)		・走る順番を考えたり、バトンパ
(D)		スの方法を工夫したりするな
		ど,効率的なバトンパスについ
		て記述することができている。
	体力や技能の程度、性別等の違	・自他の課題を分析することがで
努力を要する	いを超えて楽しむためのアイディ	きていない。
(C)	アを提案することができていな	・効率的なバトンパスについて記
	V,	述することができていない。

(4) 「主体的に学習に取り組む態度」を観察・ワークシートから評価する

評価規準 主体的に学習に取り組む態度②

一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。

年担仆加	判断の目安	相会される様相
実現状況		想定される様相
	一人一人の違いに応じた課題や	・個々の違いに配慮をしながら,
	挑戦について肯定的に考えたり,	自他の課題が解決できるよう,
十分満足	相手を気遣ったりする行動が定着	適切に練習を工夫することがで
(A)	している。	きている。
(A)		・ペアの特徴を踏まえて具体的な
		アドバイスや、より改善するた
		めの練習方法を考えている。
	一人一人の違いに応じた課題や	・自他の課題が解決できるように
おおむね満足	挑戦を尊重し、ペアの活動を受け	練習方法を工夫することができ
	入れようとしている。	ている。
(B)		ペアの特徴を踏まえたアドバイ
		スを考えている。
	一人一人の違いに応じた課題や	・自他の課題が解決できるように
	挑戦を大切にしようとせず、ペア	練習方法を工夫することができ
奴力な一番子で	の活動を敬遠しようとする。	ていない。
タ力を要する (C)		・課題に向き合うことができてい
(C)		たい。
		ペアの特徴を踏まえたアドバイ
		スを考えていない。

3 考察

今回設定した授業(5時間目)において知識を「観察」で評価しようとする場合,自己に応じた目標の設定や目標を達成するための課題設定の項目ではなく,記録会などを通じた学習成果の確認や新たな目標設定の項目を評価することになる。一般的な評価の方法でいえば,ワークシートに記述させ,指導者との対話などを観察していくことになる。評価方法の考え方については,1時間目での100m 走の計測での主観的評価と,ICT等を活用した客観的評価を把握・理解した上で,目標設定や練習課題の設定ができていることが大前提にある。つまり,その内容を踏まえた回答がなかった場合や,指導者の助言を借りて回答できた場合の評価については,(C)となる。(A)については,1時間目の計測の結果や評価と5時間目の計測の評価を,学習者の目標に照らし合わせて,主観的感覚と客観的結果を比較分析した回答がなされているか,また,走行時の意識すべき身体部位や身体の動かし方等を具体的に回答できているかがポイントになると考える。

「知識」の判断の目安(C)の中に,「指導者の支援を借りながら発言している。」という文言がある。ここで,学習者は発言できているにもかかわらず(C)にすることに対して疑問が生じる場合もある。この部分については,指導者の支援の程度や学習者の発言の程度にもよるため,どの程度で(B)や(C)にするかの判断の目安を教科内で検討する必要がある。例えば,指導者の支援を借りながらでも発言できていれば(B)とするのであれば,発言できていない場合を(C)とし,あらかじめ(B)と設定していた判断の目安を(A)に含めて評価するなど,学習者の実態に合わせて判断の目安を工夫する必要がある。

【質問例・回答例と評価の目安】

質問:本時の計測を評価し,次の目標を決めてみよう! (初回授業の計測結果と比較し、意識したところ、できたところ、できなかったところなどを記述しよう。) 回答

- (A): 初回授業の計測では、50mを過ぎたあたりから顎が上がり、腕振りが乱れて上半身が大きく揺れてしまった結果、急激にスピードが落ちてしまった。そのため、練習では後半の走りにおいて、できる限りスピードが低下してしまわないようにインターバル練習を取り入れ、走るフォームが後半になっても乱れないようにすることを意識した。その甲斐あって今回の計測では、自分自身の感覚でも腕振りが乱れることなく走ることができた。また、動画を確認し走行スピードを計算したところ、初回授業よりも低下することなく走ることができており、その結果 100m 走のタイムを 0.5 秒更新することができた。しかし、今回の計測では、スターティングブロックのスタートにおいて反応が遅れ、躓いてしまったので、次回はスタートからの脚の接地と加速に重点を置き練習をしていきたい。
- (B): 初回授業の計測では、50mを過ぎたあたりから脚が急に動かなくなり、全然タ

イムが出なかったので、練習では友達とインターバル練習をたくさん行った。その結果、今回の計測では後半でも急に脚が動かなくなるということもなく、100 m走のタイムも 0.5 秒更新したので嬉しかった。しかし、スターティングブロックで失敗してしまったので次回はそれを練習していきたい。

(C): 初回授業の計測よりもスタートで躓いたがタイムが上がって嬉しかった。次も 頑張りたい。

今回の質問,『本時の計測を評価し,次の目標を決めてみよう! (初回授業の計測結果と比較し,意識したところ,できたところ,できなかったところなどを記述しよう。)』を発問した場合,上記のような回答が返ってくると想定され,各回答例が各判断の目安に相当すると考える。

質問が『本時の計測を評価し、次の目標を決めてみよう!』のみだった場合、どのような評価規準になるか考察してみた。この場合、指導者が期待している回答は、今回の計測の分析・評価と次の目標のみである。つまり、上記の回答例において、具体性は欠けているものの(B)の回答例も(A)に相当する可能性がある。生徒の回答のどの部分に重きを置いて評価するかを教科内で検討しておく必要がある。また、今回は観察での評価を想定したため、生徒の習熟度とコミュニケーション能力を踏まえたうえで質問しないと、評価の妥当性が担保されない可能性がある。例えば、分析はできているのに発表が上手くできないから、本来は(A)だが(B)などの評価となる可能性があるので、注意しなければならない。

さらに、今回の質問には『具体的に』という文言が入っておらず、このことも考慮しなければならない。生徒が具体的な内容を回答するかどうかは予測できないが、聞かれていることに回答しているという状況になることがある。つまり、今回の質問内容であれば、

(B)の回答例が(A)に相当する回答であるとも考えられる。また反対に、質問内容に『具体的に』が含まれているのであれば、上記の(A)の回答例が(B)に相当する可能性も考えられる。具体性の程度を教科内で共有して、公平に評価することは非常に難しいため、今回は「観察」のみで評価するのではなく、「ワークシートへの記述」も併用することで、教科内での検討が可能となった。

リレーのバトンパスの技能の評価については、学習指導要領解説に記載されている『リレーでは、大きな利得距離を得るために、両走者がスピードにのり、十分に腕を伸ばした状態でバトンを渡すことができる。』状況の判断の目安を(B)にした場合、(A)はどの程度を想定して判断の目安を定めるのかが非常に難しい。複数回成功させることを評価するのか、誰とペアを組んでもできるということを評価するのか、さまざまなバトンパスの方法を習得できることを評価するのかなど、不鮮明な部分も多く、各学校の状況に委ねられている部分が大きい。そのため、今回はこの学習指導要領解説に記載されているものを(A)として設定し、考察することにした。

評価のポイントは「両走者がスピードに乗っている」かと「腕を伸ばした状態」の2点がどのような状態で達成できているかである。(C)の判断の目安については、バトンパスに成功しなかった場合とバトンの受け渡しは成功しているが、評価のポイントが2点とも達成されていない場合、両走者の距離が詰まってしまい、スピードが落ちた状態のバトンパスをした場合を想定している。(B)の判断の目安では、バトンパスの成功は大前提として、両走者のスピードではなく、腕を伸ばした状態でバトンパスができているか(利得距離)に重点を置いて設定した。次走者の出るタイミングによって、両走者でスピードを調整し、最大限の利得距離を得ることができているかで評価すると適切である。(A)の判断の目安については、2つのポイントをどちらも達成した状態(両走者がスピードを緩めることなく、大きな利得距離を得ることができている)である。これらを見取る場合も、目視のみでは評価することは難しいと考えられるので、動画を撮影し確認するなどの工夫が必要である。

また、別の方法での技能の評価を考えてみると、「両走者がスピードに乗っている」と「腕を伸ばした状態」の2点がどちらも達成できていれば(A)、どちらか1点が達成できており、バトンパスが成功していれば(B)、どちらも達成できていない状態でのバトンパス成功や、バトンパスが失敗している場合は(C)とする評価規準の設定も考えられる。

加えて、一般的にリレー競技において、利得距離を重要視するバトンパスの方法はオーバーハンドパスであり、学習指導要領でもオーバーハンドパスを想定していると考えられる。しかし、現在の日本代表男子チームの4×100mリレーのバトンパスはアンダーハンドパスを採用しており、4×400mリレーではまた別のバトンパスの方法を採用したりしている。つまり、バトンパスの技能の到達目標は利得距離を多くとることよりも、両走者がしっかりスピードに乗った状態でバトンパスを行うことができるかに重点を置いて技能の習得を行うという考え方もある。この場合、「両走者がスピードに乗っているか」を重視した判断の目安になるため、30mのテークオーバーゾーン区間内のバトン自体の通過時間を計測し、その記録を技能として評価することになる。つまり、テークオーバーゾーン内のバトンパス完了位置は加味する必要がなく(どの位置でどちらの走者がバトンを持っているかも加味する必要がない)、利得距離はほとんど評価に影響しない。バトンが速く進めばよいということになってしまう。

リレー種目の醍醐味は「チームで一致団結して、いかにバトンを速く運ぶか」である。 そのため、バトンパスの練習を効果的に進めていくには、両走者のコミュニケーションが 重要であり、どのタイミングで次走者がスタートをするかをよく検討する必要があり、検 証と評価を繰り返していくことになる。このような学習活動については、ワークシートな どを用いて、思考・判断・表現で評価していくことが望ましいと感じた。

思考・判断・表現③では、前時までの 100m 走の計測や 200mのペアでのリレー計測での課題の分析とその解決を行い、新しく始まったバトンパス練習から課題の発見や課題解決

の方法を考える時間である。評価の方法はワークシートとペアでの話し合いを観察で評価していく。評価については、まず200mのペアでのリレー計測で出た課題を適切に分析し、その課題に対しての具体的な解決方法を提案できているかどうかを評価する。また、新しくバトンパスの練習が始まるので、仲間の100m走のタイムや特徴(スタートが得意、バトンパスが上手い等)を生かして走る順番を考えることや、バトンパスの方法を工夫し、効率的なバトンパスについて互いにコミュニケーションをとりながら考えることができているかを評価していく。仲間の走力を考慮してマークの位置を工夫できているか、特徴を考えて走順の工夫ができているか、練習から自分たちの効率の良いバトンパスの方法を見つけられているかなどが判断の目安となる。(B)は課題を分析し、その課題の解決方法を考えることができているか、また効率的なバトンパスをするための工夫がなされている場合である。(A)は、自他の課題をしっかりと分析できており、その課題に対して具体的な解決方法が示されている場合や効率的なバトンパスのための工夫がしっかりとされている場合であり、(C)は課題の分析が上手くできていない場合や、バトンパスについて具体的に考えられていない場合である。

【ワークシート質問例と回答例】

とができた。

質問:200mリレーで出た課題を、ペアでどう改善したのか記述してみよう。 回答

(A): 200mリレーでは、バトンパスの際に腕を伸ばして、スピードを高めて受け渡すことができなかったため、バトンパスの練習の時に 15 足長のところにマークを置き練習をしてみたところ、お互いにスピードに乗ってバトンパスをするこ

(B): 200mリレーでは、バトンパスの際にスムーズに受け渡すことができなかったため、バトンパスの練習の時に声をかけてパスをすることでスムーズに受け渡すことができるようになった。

(C): 200mリレーでは、バトンパスの際にうまく受け渡すことができなかったが、 練習を繰り返すことでスムーズに受け渡すことができるようになった。

「今日のバトンパス練習で、見つかった課題を記述してみよう。」という質問についても 想定される回答を考察してみた。よくある回答は「バトンパス練習では、最初振り向いてバ トンを渡していたが、スピードに上手く乗ることができなかった。振り向いて渡す方法は確 実にバトンを渡せるがスピードに乗りにくいことが分かったので、次の練習では振り向か ずにオーバーハンドパスでのバトンパスを試してみようと思う。」などのように、技術的な 知識の内容に片寄ってしまう例がある。ワークシートを使って評価を行う際は、どの観点を 評価するのかをしっかりと考え、質問を精査して作成する必要を感じた。

主体的に学習に取り組む態度②はペアワークの観察及びワークシートでの評価となる。

ここでは100m走の計測を行い、1回目の計測との違いをペアで話し合う中で、一人一人の違いに応じて課題や挑戦が変わってくることが理解できているか、実現可能な課題の設定や挑戦になっているか、仲間の特徴を理解して具体的なアドバイスをすることができているかなどを判断の目安にすることにした。例えば「計測を終えて〇〇さんヘアドバイスをしてみよう」などのような質問が考えられる。計測を終えて仲間の特徴を踏まえながら良い点や修正点についてアドバイスができたり、実現可能な課題の設定やそれを解決できるような練習を工夫している場合は(B)となる。(A)では、一人一人の特徴や違いに配慮した具体的な発言やアドバイスがみられる場合や、現状へのアドバイスに加えて今後さらに良くするための発言や働きかけがなされている場合が考えられる。(C)では、仲間の特徴を踏まえずにアドバイスをしている場合や課題を解決するための練習を工夫できていないなどの回答がみられた場合となる。

4 研究の成果と課題

今回,陸上競技の短距離走・リレーの学習評価について検討していく中で,適切な評価とは何か,評価の妥当性を高めるためには何が必要なのかについて,深く考える機会となった。指導する生徒の状況によって,目指す目標が異なるため,学習指導要領を理解し,授業展開を工夫して,評価方法や評価規準を教科内で十分に検討して共有する必要がある。また,「十分準備したにもかかわらず,指導者が想定した生徒の状況と大きく異なっていること」もあり,授業計画や評価計画を修正することがある。日々の授業において,指導と評価を一体として捉えることにより,妥当性のある評価方法や評価規準が生まれてくるものと考える。

本研究の成果は、生徒に対してどのような問いかけ(発問)を行うかが非常に大切であるということを改めて実感できたことである。当然のことであるが、この問いかけ(発問)をどのように行うかによって生徒がどのように回答するかが変化する。生徒に対して、授業の内容を踏まえてどのような回答を期待しているかで、問いかけの内容も変化し、判断の目安も変化する。判断の目安が適切に定められていないと、生徒に求める姿を妥当に評価することができない。

今後は本研究の成果を生かして、教科「保健体育」のより良い指導と評価を実践していきたい。

[D 水 泳]

1 指導と評価の計画

	_	:	次の運動にしいて	7. 記録の向上や競争	次の運動について、記録の向上や競争及び自己や仲間の課題を解決するな	果題を解決するなどの	どの多様な楽しさや喜びを味わい.	、を味わい、技術の名	技術の名称や行い方、体力の幅め方、	5め方、課題解決の方法、	法、競技会の仕方などを理解する	,を理解するとともに,	: 自己に適した淡法の効率を高めて淡	の対解を喧めて深 ぐ
		知識及び技能	ことができるようにする	にする。										
単元点	単元の目標	思考力, 判断力, 表現力等	生涯にわたって通	፤動を豊かに継続する	生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し	り課題を発見し, 合理的,		計画的な解決に向けて取り組み方を工夫する	□夫するとともに, 自	己や仲間の考えたこ	とを他者に伝える	ことができるようにする	0	
	1	学びに向かう力, 人間性等	水泳に主体的に取ぶの事故防止に関	Xり組むとともに,展 引する心得を遵守する	水泳に主体的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールや 泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保することがで	ナ止め, ルールやマナー 電保することができるよ	マナーを大切にしようとす きるようにする。	3 7 7	役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそう)責任を果たそうとす	3 7 7 7	いに応じた課題や抄	—人—人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする -	することなどや, 水
	Ħ	1	2	3	4	5	9	7	8	6	10	11	12	授業づくりのポイント
] 0					点呼,	, 健康観察, 準備運動	≣動,本時の学習内容の確認	の確認					・動きの獲得を通し て,知識の大切さを
計 器 6	10	オテ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	入学年次の泳法の振り返り ・クロール, 平泳ぎ, 背泳	入学年次の泳法の振り返り ・クロール, 平泳ぎ, 背泳ぎ, パタフ	7 5	自己に適した淡法を選択し ・ クロール (板キック, 圻 甲級動作のタイ::ハグ) ・ 平淡ぎ (板キック, 靖 板块みストローク, スイ が挟みストローク, スイ	自己に適した淡法を選択し効率を高める練習 ・クロール (板キック、 片手ストローク、 キック、 呼吸動作の女 イミング) ・平泳ぎ (板キック、背面キック、その場ストロ・ 板挟みストローク、スイムドリル、呼吸動作の カオミング)	練習 , キック, ブル, 場ストローク, 吸動作の	課題別練習 各泳法における ・スタート (水 ・ターン (け件	課題別練習 各泳法におけるスタート,ターン練習 ・スタート(水中スタート,ブールサイドで座位, ・ターン(け伸び前転,側転,回転,職り出し)		ブールサイドで中腰)	- 競技会 - - - - - - - - - - - - -	実感できるようにする。 る。 ・個々の課題や挑戦 を大切にし、教え合 う場面を設定するこ とで学びの質を高め
ぶれ	30 40		自己の苦手な種目の復習・クロール、 平泳ぎ、 背	自己の苦手な種目の復習・クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフ・クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフ・	Γ Γ	・ は 次 は (後 キッ / イン / イン / イン / イン / イン / イン / イミン / イミン / イミング / イェング / イ	- ボジェ(仮キック, 片部は上げキック, 片部ストロー・ 米国タッチストローク, 早吸動作のタイミング) ・パタフライ (板キック, 精団キック, イルカ跳び, 片部ストローク, 1ストローク5キック, 呼吸動作の タイミング)	・ 片腕ストローク、 イニング) イル力跳び、 ク、 耳吸動作 の	機機競技・ ・ ご ・ フ レ レ ー				· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	・、、、、、。・、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、
	02					点呼,健康観察,	整理体操,本時のま	とめ, 次時の課題,	学習ノート記入指示					導する。
	3	1	2	က	4	2	9	7	80	6	10	11	12	主な評価方法
計	展	Θ		3					©				(4)	観察、学習ノート
佢 潮	科					①	2 3 4			99				観察
≱ √ 4	兴		②			1				2		3		観察,学習ノート
	熊				(4)		0				(3)		3	観察
	# 0 0 0 0	①水泳では、各種目や運動の局面ごとに技術の名称があり、それぞれの技術には、効率のよい泳ぎ②水泳の種目によって必要な体力要素があり、その種目の技能に関連させながら体力を高めること③課題解決の方法には、自己に応じた目標の設定、目標を達成するための課題の設定、課題解決の④職技会や記録会や記録をルール、運営の仕方や役割に応じた行動の仕方、全員が楽しむための	や運動の局面ごとに: て必要な体力要素が, ま, 自己に応じた目≹ <mark>截技のルール, 運営</mark>	技術の名称があり, あり,その種目の技・ 標の設定,目標を達! <mark>の仕方や役割に応じ</mark>	それぞれの技術には 能に関連させながら 成するための課題の <mark>た行動の仕方、全員</mark>		ながる重要な動きの きることについて, の練習方法などの選 等の調整の仕方など	につながる重要な動きのポイントや安全で合理的,計画的な練習の仕方があるができることについて,学習した具体例を挙げている。 ができることについて,学習した具体例を挙げている。 ための練習方法などの選択と実践,記録会などを通した学習成果の確認,新た. 一 ル等の調整の仕方などがあることについて,学習した具体例を挙げている。	理的,計画的な練習 げている。 どを通した学習成果、学習した異常のを	の仕方があることについて, の確認, 新たな目標の設定と 挙げている。			言ったり書き出したりしている	- アイいる。
<u></u>	<u> </u>	①クロールでは,手は遠くの水をつかむように前方に伸ばすことができる。	は遠くの水をつかむ。	ように前方に伸ばす	ことができる。									
元の評価期	# 	②平泳ぎでは、ブルのかき終わりと同時に、顎を引いて口を水面上に出して息を吸い、キックの躑の胃泳ぎでは、かき終わりで肘を伸ばした後、力を抜き、肩のローリングを使ってリズムよくリカのバタフライでは、体のうねり動作に合わせたしなやかなドルフィンキックをすることができる。⑤各泳法に適した準備の姿勢から、スタートの合図と同時に力強く蹴りだし、抵抗の少ない姿勢での条と、の名トンの行い方に応した集構の必ない姿勢が可断し、方向を登集することができる。	のかき終わりと同時 終わりで肘を伸ばし: 本のうねり動作に合: 軸の姿勢から, スタ- だ!! た抵抗の少ない?	に、顎を引いて口を. た後、力を抜き、肩 わせたしなやかなド. - トの合図と同時に. かかの動し. 方向.	水面上に出して息を のローリングを使っ ルフィンキックをす 力強く蹴りだし、	②平泳ぎでは、ブルのかき終わりと同時に、顎を引いて口を水面上に出して息を吸い、キックの蹴り終わりに合わせて、流線型の姿勢を維持して大きく伸びることができる ③背泳ぎでは、かき終わりで肘を伸ばした後、力を抜き、肩のローリングを使ってリズムよくリカバリー動作を行うことができる。 ④バタフライでは、体のうねり動作に合わせたしなやかなドルフィンキックをすることができる。 ⑤各泳法に適した準備の姿勢から、スタートの合図と同時に力強く蹴りだし、抵抗の少ない姿勢で進行方向に体を伸ばすことができる。 ⑥タシンの行い方に応じて推加の火ない姿勢で回転し、方向を変換することができる。	り終わりに合わせて, 流線型の パリー動作を行うことができる 進行方向に体を伸ばすことがで	硫線型の姿勢を維持し げできる。 ことができる。	て大きく伸びること,	ができる。				
崇		①選択した泳法につい	泳法について, 自己や仲間の動きを分析して,	動きを分析して,良	良い点や修正点を指摘している	している。								
	® ®	②練習や競技会などの場面で, 自己や仲間の危険を回避するための活動の仕方を提案している。 ③水泳の学習成果を踏まえて自己に適した「する, みる, 支える, 知る」などの生涯にわたって	の場面で, 自己や仲) 沓まえて自己に適し?	間の危険を回避する7 た「する,みる,支;	るための活動の仕方を提案している 支える, 知る」などの生涯にわたっ	提案している。 生涯にわたって楽しむ	。 で楽しむための関わり方を見付けている	見付けている。						
	# #	①水泳の学習に主体的に取り組もうとしている。 ②勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとしている ③ <mark>サ人→人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしょうとしている。</mark> ○・二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十	的に取り組もうとし、 受け止め、ルールや・ <mark>たじた課題や挑戦を</mark> 、 へばす。	学習に主体的に取り組もうとしている。 どを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようと 人の違いに応じま類都や地域を大切にしょうとしている。	シとしている。 いる。 ずん	- U	·							
** **	(掛けは, 写	4)水泳の事故防止のu 事例研究該当箇所。プ	心得を遵守し, 危険 大枠線内は, 昨年度:	の予測をしながら回からの追記箇所。	避行動をとるなど,	④水泳の事故防止の心得を遵守し、危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保している 網掛けは、事例研究該当箇所。太枠線内は、昨年度からの追記箇所。	. 621							

2 指導と評価の具体例

(1) 「知識」を学習ノートから評価する

評価規準 知識④

競技会や記録会で、競技のルール、運営の仕方や役割に応じた行動の仕方、全員が楽しむためのルール等の調整の仕方などがあることについて、学習した具体例を挙げている。

実現状況	判断の目安	生徒の回答例
	競技のルール、運営の仕方や役	・リレーでは、「メンバーのベスト
	割に応じた行動の仕方、全員が楽	タイムからハンディキャップを
十分満足	しむためのルール等の調整の仕方	設定することで、全員が楽しく
(A)	について、具体的な知識と汎用的	勝敗を競うことができる。」など
	な知識を関連付けて具体例を挙げ	具体的に記述している。
	ている。	
	競技のルール、運営の仕方や役	・リレーでは、「ハンディキャップ
おおむね満足	割に応じた行動の仕方、全員が楽	を設定することで、全員が楽し
(B)	しむためのルール等の調整の仕方	く勝敗を競うことができる。」な
	について、具体例を挙げている。	どと記述している。
	競技のルール、運営の仕方や役	・リレーでは、全員が楽しく勝敗
努力を要する	割に応じた行動の仕方、全員が楽	を競うことができるような具体
(C)	しむためのルール等の調整の仕方	例が記述されていない。
	について, 具体例を挙げていない。	

(2) 「技能」を観察から評価する

評価規準 技能①

クロールでは、手は遠くの水をつかむように前方に伸ばすことができる。

実現状況	判断の目安	生徒の状況
	クロールでは、手は遠くの水を	・手を遠くの水をつかむように前
1.八进日	つかむように前方に伸ばし、肘を	方に伸ばした後、肘を曲げて腕
十分満足	曲げて腕全体で水をとらえること	全体で水をとらえ、大腿までか
(A)	で、加速するように泳ぐことがで	ききることができる。
	きる。	
おおむね満足	クロールでは、手は遠くの水を	・手を遠くの水をつかむように前
	つかむように前方に伸ばすことが	方に伸ばすことができる。
(B)	できる。	
 努力を要する	クロールでは、手は遠くの水を	・手を前方に伸ばすことができな
<i>労力を</i> 安りる (C)	つかむように前方に伸ばすことが	い。
(0)	できない。	

(3) 「思考・判断・表現」を観察・学習ノートから評価する

評価規準 思考・判断・表現①

選択した泳法について、自己や仲間の動きを分析して、良い点や修正点を指摘している。

実現状況	判断の目安	生徒の状況・回答例
十分満足 (A)	自己や仲間の動きを分析して, 良い点や修正点を, 具体的に分か りやすく挙げている。	・自他の動きを分析し、必要な技能を調べ、具体的に分かりやす く記述している。
おおむね満足 (B)	自己や仲間の動きを分析して, 良い点や修正点を挙げている。	・自己の動きを分析し、良い点や 修正点を記述している。 ・仲間の動きを分析し、良い点や 修正点を指摘している。
努力を要する (C)	自己や仲間の動きを分析せず, 良い点や修正点を記述していない。	・自己の動きを分析しておらず, 良い点や修正点を記述していない。 ・仲間の動きに関心を持たず,良 い点や修正点を指摘していない。

(4) 「主体的に学習に取り組む態度」を観察から評価する

評価規準 主体的に学習に取り組む態度③

一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。

実現状況	判断の目安	想定される様相
十分満足 (A)	一人一人の違いに応じた課題や 挑戦を大切にしようとする発言や 行動が定着しており,他者を気遣 おうとしている。	・一人一人の違いに応じた課題への配慮や、挑戦を支援するなどの発言や働きかけが安定してみられる。・うまくできなかったときに、一人一人の違いを踏まえて、自己や他者への肯定的な発言や働きかけがみられる。
おおむね満足 (B)	一人一人の違いに応じた課題や 挑戦を大切にし、気遣おうとして いる。	・一人一人の違いに応じた課題や 挑戦を大切にし、課題別練習に 取り組む様子がみられる。

挑戦を大切にしようとする行動が 定着しておらず, 他者を気遣うこ とができていない。

努力を要する (C)

- 一人一人の違いに応じた課題や | ・一人一人の違いが生じている状 況でも、関わりを遠ざけたり、 あきらめたりするなど消極的な 姿勢が教師の働きかけの後もみ られる。
 - ・他者の挑戦を肯定しない言動が みられる。
 - ・教師が働きかけを行っても、他 者の意欲を低下させる否定的な 言動がみられる。

3 考察

今回の指導と評価の計画を参考に水泳の授業を以下の内容で実践した。1時間目の授 業において,クロールと平泳ぎの 50mの記録を測定し,個人の泳力の把握をした。2~ 4時間目の授業では、各自の泳力ごとにレーンを分け、効率のよい泳ぎにつながる動きの ポイント等,各自の課題解決に向け仲間とともに取り組む時間とした。この活動では、泳 力の高い水泳経験者が中心となって指導・助言するなど積極的に取り組む姿が見られた。 5時間目の授業においては、再度クロールと平泳ぎの50mの記録を測定し、泳ぎ方や記録 の変化を見ることで自己や仲間の動きを分析し、良い点や修正点を分析する時間を設け た。その後の授業では、各自の課題解決に向けた練習内容を選択し取り組むとともに、模 擬競技会 (記録の測定やリレー) を行うことでさらなる技能の向上を目指して教え合う雰 囲気を醸成させることができた。リレーの競技会を行うにあたっては、「みんなが楽しめ るリレーのルールの工夫」について考えさせ、提案があった方法で実施した。なお、授業 では毎時間、水泳事故防止の心得について遵守を促し、危険予知・危険回避などの健康・ 安全面に対しては丁寧に指導した。

「知識」の評価では,「みんなが楽しくリレーを行うためには,どのような工夫をすべ きか?」と発問をし、学習ノート(ロイロノート)で回答させたところ、判断の目安が(A) に相当すると考えられる「ベストタイムをみてチームを編成する」という回答が多くあっ た。また、「クロール板キック、平泳ぎ板キック、板挟みストロークなどの泳法をいれる ことで、みんなで楽しむ。」といったより具体的な回答もあった。しかし、発問の意味を 取り違えて回答してしまう生徒もいたため, 発問の内容をしっかりと精査し, 伝達してい く必要があると感じた。

「技能」を観察から評価する上で、判断の目安を作成することは非常に有意義であった。 生徒にとっても分かりやすく、指導にも反映させやすいと感じた。現在本県では、プール の老朽化などを理由に水泳の授業を行わない学校が増えており、水泳の授業を経験した ことのない教員が増えている。このような状況を踏まえても,判断の目安を作成すること

は、教員が学習評価の相互理解を深める重要な役割を果たしていると考えることができる。

「思考・判断・表現」を学習ノート(ロイロノート)から評価するにあたり、生徒がクロールと平泳ぎの50mの記録の変化から課題解決できたことは非常に有意義であった。「自分自身の泳ぎを成長させてくれた仲間のアドバイスは何でしたか?」の問いに、「A君の、『1回1回のバタ足で足が水中に沈んで行ってしまいロスが大きいから、バタ足を小さくするといいよ。』というアドバイスのおかげで、クロールのタイムが7秒速くなった。」や、「頑張っている仲間にアドバイスすることで、基本に戻って綺麗に遠くから水をかくことを意識して泳いだらタイムが上がった。」といった水泳経験者からの記述もあり、練習中には気付くことのできなかった仲間との課題解決に向けた取組を知ることができた。

「主体的に学習に取り組む態度」に関しても、判断の目安を作成したことで順調に評価に取り組むことができた。授業では、各自の課題解決に向けた取組を見取ることができ、効果的に学習させることができたと考えている。今後も、このような授業展開をさらに活性化させるための方法を模索していく必要がある。

4 研究の成果と課題

「技能」と「主体的に学習に取り組む態度」に関しては、判断の目安を作成することで、 他の教員との共通理解を明確に図ることができた。特に「技能」においては、自身がタイムによる評価に頼りがちであったこともあり、考え直すきっかけとなった。今後は、さらに改善を進めていき、評価の妥当性を高めていきたい。

「思考・判断・表現」を観察により評価する場合は、生徒の活動中に見取ることのできない場面が多々あるため、学習ノートの活用が有効であった。「知識」の評価においても言えることであるが、学習のノートを活用する中で、何よりも大切なのは「発問の仕方の工夫」である。今回の「みんなが楽しくリレーを行うためには、どのような工夫をすべきか?」の発問では、45.8%の生徒の評価が(A)に相当した。生徒の知識や思考・判断・表現を的確に評価できるような発問の仕方を模索していくことも今後の大きな課題であるため、自己研鑽していく必要がある。また、水泳授業中における学習カードやタブレット端末の活用は、水に濡れている状態で取り扱いが難しく、その授業時間内に課題を提出させることが困難である。どうしても授業時間外での提出になってしまうことが悩ましいため、今後の課題にしたい。

本研究では、各観点1つのみの評価場面についての事例研究を実施したが、指導と評価の計画表では合計17の評価機会が示されている。より良い授業づくりのために、評価に追われる授業にならないよう、今後も研究を続けていく必要がある。

【F 武 道】

-	犻	指導と評価の計画	回惧(
		知識及び技能	次の運動につい 技などを用いた ア 柔道では,	次の運動について、勝敗を競ったり自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、 技などを用いた攻防を展開することができるようにする。 ア 柔道では、相手の動きの変化に応じた基本動作から、得意技や連絡技・変化技を用いて、素早く相手を削	り自己や仲間の課題? とができるようにす? こ応じた基本動作から	を解決したりするなる。 る。 ら、得意技や連絡技	:決したりするなどの多様な楽しさや 得意技や連絡技・変化技を用いて,	·喜びを味わい, 伝参 素早く相手を崩しで	喜びを味わい,伝統的な考え方,技の名称や見取り稽古の仕方,体力の高め方,課題解決の方法, 業早く相手を崩して投げたり,抑えたり,返したりするなどの攻防をすることができるようにする	技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方、課題解決の方法、 1. 1.えたり、返したりするなどの攻防をすることができるようにする	土方, 体力の高め方, ごの攻防をすること [,]	課題解決の方法, ができるようにする	試合の仕方などを理解すると。。。。。	単解するとともに, 得 意
単	単元の目標	票 思考力, 判断力, 表現力等		生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し	するための自己や仲間	間の課題を発見し,	合理的, 計画的な解決に向けて取り組み方を工夫する	決に向けて取り組る	لد	ともに, 自己や仲間のき	自己や仲間の考えたことを他者に伝え	ることができ	るようにする。	
		学びに向かう力, 人間性等		武道に主体的に取り組むとともに、相手を尊重し、礼法などの伝統的な? などや、健康・安全を確保することができるようにする。	相手を尊重し, 礼ジ こができるようにする	去などの伝統的な行 5。	示動の仕方を大切にしようとする	رب ب	役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとするこ	受け自己の責任を果:	ند	一人一人の違いに応	人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にし	√切にしようとするこ と
		1	2	3	4	2	9	7	8	6	10	11	12	授業づくりのポイント
	0							₩ ₩	の学習内容の確認)					・技能の習得を通し
														て、知識の大切さを
	10													実感できるようにす
			基本動作と受											る。 ・ICTを用いて自己
計 :	20	*シ	け身の確認	国め技		投げ技①		投げ技②						や仲間の動きをふり
# E		H ソル		・固め技の練習	・固め技の練習と逃げ方の練習	後	習と投げ技の防御	・投げ込みの乱取り・投げ技の連絡の練習	乱取り 絡の練習		買	ζп	試合の動画	巡り、利には味恩で 設定したり、教え
熊		. – .)		・ 国め技の連絡	・固め技の連絡の練習と固め技	の稼組・おげ抜きなげ込み締	47.7.2.3年39	・投げ抜から	・投げ技から固め技への連絡の練習	80			訓	合ったりする場面を
4	30	т,		の乱取り		XI CXI CXI	日本などに						≨ 4	設定することができ
		\	受け身の簡易										Ж Э Э	るようにする。
			トスト											・自己や仲間の体格
	40													や技量を把握させ、
														安全に配慮した展開
	20				 	- 共通メニュー (整 ³	(整理運動,振り返り), 次回課題等)						ر کر اور کار ادر اور کار کار کار کار کار کار کار کار کار کا
ŀ		П	2	8	4	2	9	7	8	6	10	11	12	主な評価方法
土地	呆	Θ									<u>©</u>	©		7ークシート
∄ 類	技				<u>®</u>		Ð		©	4				観察
₹ 4	畛			①		(2)							3	観察・ワークシート
1	瓣		3		1			(2)				(3)		観察
	¥	①武道では,各種目での理解解決の方法には	が用いられる技の名称や 自己に広いて目標の	①武道では、各種目で用いられる技の名称や用語があり、それぞれの技には、技の向上につながる重要な動きや用具の操作のポイント及び安全で合理的、計画的な線習の仕方があることについて、学習した具体例を挙げている ②問題部はの先先には、自口に広げよ日頭の場で、日蓮を浄砕センチンの問題の路や、問題階等もでするの譲取されている語がと事路。其令たびを通した学数の単の確認。 辞さた日語語作といって通路があるテアじらて	の技には,技の向上に [、] 	つながる重要な動きや、 T解学のための練習法プ	や用具の操作のポイント及 #かどの選択と実践 計合	・ト及び安全で合理的, 計画的な練習 詳 会などを演した些数は単の確認	画的な練習の仕方がある Eの確認 新たか目煙部	の仕方があることについて、学習した具体例を挙げている。 新木杉田種語作アン・4・治理が考え、アア・コンド・ 書ってり事ま出」 ケコード・20	た具体例を挙げている アンドロント mint	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		
		(3試合で、競技のルー	・ル、運営の仕方を役割	3部合で、競技のルール、運営の仕方を役割に応じた行動の仕方、全昌が楽しむためのルール等の調整の仕方などがあることについて、学習した具体例を挙げている	全員が楽しむためのル-	- ル等の調整の仕方な。	どがあることについて.	学習した具体例を挙じ						
洲		①投げ技と投げ技の防	う御では,取は内股をか	①投げ技と投げ技の防御では,取は内股をかけて投げることかでき,受は受け身を取ることができる。受は,相手よりも重心を低く落として防ぐことができる	受は受け身を取ること	とができる。受は,相	手よりも重心を低く落と	こして防ぐことができ、	20					
民 6	杖	②投げ技の連絡におい	、て、二つの技を同じ方 野は指すの種類の扱い	②投げ技の連絡において、二つの技を同じ方向にかける技の連絡では、内股から体落としく連絡することができ、二つの技を違う方向にかける技の連絡では、内股から大内刈りへの連絡ができる ©田の社の道線をは、昨に出声に懸かったからです。************************************	は、内股かの体絡とし、 * 華田十田は 「田本	へ連絡することができ、 □ ■ はいます □ □ □	こつの技を違う方向に	こかける技の連絡では、	内股から大内刈りへの)連絡ができる。				
) II		<u>②国の欠り年配では</u> , ④珍に括せで困を括く	(の) はなる 日本の はない の はない 日本の	<u>の国の文文の用語では、大き日子の響の2名であるです。この国の、常田と司の第二</u> 指表で困乏拡入(日本教を)、日本教を、日本教を、日本教を、日本教授を、日本教育・日本教育・日本教育・日本教育・日本教育・日本教育・日本教育・日本教育・	9, <u>家口と目の</u> , 十口, アポケ州ス	2回のた加へて、 垣口	9, 城田沙国999, 湘南6	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0						
自		①見取り稽古などから	., 自己や仲間の動きを:	ONOTO X 100 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10	こができる。 正点を指摘している。									
海	₽é	②課題解決の過程を踏	きまえて, 自己や仲間の	②課題解決の過程を踏まえて, 自己や仲間の新たな課題を発見している。	.25 .									
#		③武道の学習成果を踏	なって, 自己に適した	③武道の学習成果を踏まえて,自己に適した「する,見る,支える,知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を見付けている	知る」などの運動を5	t涯にわたって楽しむ;	ための関わり方を見付い	17いる。						
	4	①武道の学習に主体的	①武道の学習に主体的に取り組もうとしている。											
	脱	②一人一人の違い。 ③ 年	②一人一人の通いこのこに採題と挑戦の大型にしょっとしている。②一个一人の通いこのにはいて はまる 日本 はまる 日本 はまる はまま はまま はまま はまま はまま はまま はまま はまま はまま	21—人一人の違いにあした課題で挑戦の大切にしょっとしている。8年発売の本地を一た式で回避行車をフスナン 衛車・舟令を辞録」といる	7.7									
** *	網掛け	<u> </u>	1箇所。太枠線内	, <u>に深る。 できまい</u> は, 昨年度から	の追記箇所。									

2 指導と評価の具体例

(1) 「知識」をワークシートから評価する

評価規準 知識②

課題解決の方法には、自己に応じた目標の設定、目標を達成するための課題の設定、課題解決のための練習法などの選択と実践、試合などを通した学習成果の確認、新たな目標設定といった過程があることについて、書き出している。

実現状況	判断の目安	生徒の回答例
2000000	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	7 - 7 - 7 - 7 - 7
	目標を達成するための課題の設	・練習で行った小内刈から大内刈
	定,課題解決のための練習法など	を使い,上手くかけられなかっ
 十分満足	の選択と実践、試合などを通した	た反省をし、見本と比較して改
(A)	学習成果の確認,新たな目標設定	善点に気付くことができた。
(A)	といった過程があることについ	・自分の問題点に気付き,具体的
	て,具体的に書き出している。	な修正点やポイントについて記
		入できた。
	目標を達成するための課題の設	・練習で行った小内刈から大内刈
	定、課題解決のための練習法など	を使い,技をかけるための反省
おおむね満足	の選択と実践、試合などを通した	を記入することができた。
(B)	学習成果の確認、新たな目標設定	・自分の問題点について記述でき
	といった過程があることについ	た。
	て、書き出している。	
	振り返りから新たな目標設定が	・自分がかけた連絡技について記
努力を要する	できていない。	入することができなかった。
(C)		・改善点を見つけることができな
		かった。

(2) 「技能」を観察から評価する

評価規準 技能③

固め技の連絡では、取は相手の動きの変化に応じながら、けさ固め、横四方固め、上四 方固めに加えて、肩固め、縦四方固めの連絡をすることができる。

実現状況	判断の目安	想定される様相
	相手の動きの変化に適切に応じ	・逃げる相手に対して、固め技の
1.八进口	工夫しながら、しっかりと固め技	形を変化している。
十分満足	を連絡し、抑え続けることができ	・逃げようとする相手の動きや体
(A)	る。	の向きに応じて連絡して抑え込
		みを継続している。

	相手の動きの変化に応じなが	・逃げる相手に対して、固め技を
ナンナンナットの洋口	ら,固め技を連絡しようとしてい	かけている。
おおむね満足	る。	・逃げようとする相手の動きや体
(B)		の向きに関わりなく、連絡して
		抑え込みを継続している。
#7 L + # L 7	固め技を連絡しようとしていな	・逃げようとする相手の動きや体
努力を要する	V,	の向きに関わりなく,力に任せ
(C)		て抑え込んでいる。

(3) 「思考・判断・表現」を観察・ワークシートから評価する

評価規準 思考・判断・表現②

課題解決の過程を踏まえて、自己や仲間の新たな課題を発見している。

実現状況	判断の目安	生徒の回答例
	投げるまでの崩しなどの過程を	・自分の技をかけるための修正点
	踏まえて、自己や仲間の新たな課	を具体的に記入できたり、他者
十分満足	題を発見したり, 克服のため相互	の技との比較などを記入したり
(A)	に工夫したりしている。	することができた。
		・他者の技を見てアドバイスをす
		ることができた。
	投げるまでの崩しなどの過程を	・自身の技をかけられるよう工夫
おおむね満足	踏まえて、自己の新たな課題を発	する点を記入できた。
(B)	見したり、克服のために工夫した	・自分の投げ技の課題を見つける
	りしている。	ために他者の技を観察した。
努力を要する	課題を見つけることができな	・自身の技をかけるための修正点
(C)	V 1°0	を記入できなかった。

(4) 「主体的に学習に取り組む態度」を観察から評価する

評価規準 主体的に学習に取り組む態度③

危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保している。

実現状況	判断の目安	生徒の状況			
十分満足 (A)	相手への危険性も考えた上で,	・相手の動きに応じて連絡するな			
	攻防の中で安全かつ適切に試合を	ど、試合の中で正しく技をかけ			
	進めることができる。	ている。			
		・相手との体格差や技量に応じて			
		安全に配慮して技をかけること			
		ができた。			
		・逃げる時には、相手や周囲に配			
		慮しながら安全な回避行動を取			
		ることができている。			
おおむね満足 (B)	相手への危険性も考えた攻防の	・技を変化しているなど、相手へ			
	中で、安全に試合を進めることが	の安全に配慮して技をかけるこ			
	できる。	とができた。			
		・逃げる時に無理なく回避行動を			
		取ることができている。			
努力を要する (C)	攻防の中で相手への危険性を考	・ポイント等を押さえず、無理な			
	えて試合を進めることができてい	攻防を展開している。			
	ない。	・相手への安全に配慮して試合を			
		進めることができない。			
		・逃げる場面では周囲への配慮な			
		く無理に回避行動を取った。			

3 考察

柔道は体育の種目の中で、怪我のリスクが高い種目である。怪我が発生しないようにするために、試合における柔道着の着方や受け身といった基本的な資質・能力を十分に身に付けさせる必要がある。

「知識」の評価に関して、今回はワークシートでの評価を取り入れて、試合を通して評価をする場面を採用したため、評価のタイミングは、授業計画の終盤となった。本研究を通して、生徒自身がより良い気付きを生み出すために、日頃から授業のポイントを丁寧かつ明確に伝えることが大切になると感じた。また、練習時から試合をイメージして取り組むことができるような指導を心がけなければならないと思った。

「技能」の評価に関して、タブレットなどを活用し動画を撮影することで、授業後でも評価が可能となる。一回の乱取りのみではなく、複数の乱取りから生徒自身の評価とすることが、より良い学習評価につながると考えられる。また、乱取りでの評価のみでは、生徒は自分の得意技のみに頼ることが想定されるため、かかり稽古などにおいて、生徒が様々な技に挑戦している場面を見取ることで、効果的に評価することができると考える。

「思考・判断・表現」の評価においては、指導したポイントについて、生徒自身が感じ

たことや気付いたことを言語化したものをワークシートで評価することが適切である。 また,自分だけでなく仲間の動きを観察し,気付いた点も積極的にワークシートに記入す るよう促すことで,学びが深まるのではないかと考える。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価に関して、練習や試合の中でどれだけ継続性をもって積極的に取り組んでいるかということが大切であると考える。その姿勢が、仲間への声掛けや安全上の配慮につながるのではないか。また、柔道という競技において、相手への敬意を払うことも大切な要素である。試合前後の礼法をしっかりと行うことは、競技の理解に大切な要素と考える。そのために、どのような声掛けをしているか、どのような姿勢で試合に取り組んでいるのかということをしっかりと観察する必要がある。試合の中で評価を同時に行う場合には、タブレット等を活用し、試合の様子を撮影して評価の材料とすることも効果的である。

4 研究の成果と課題

今回の研究において、ワークシートでの評価のみで生徒の記入内容に大きな差を見つけることは難しいと考えられた。そのため、タブレット等を活用し、評価の観点に関するような発言が見受けられた時には、採用していくことも必要ではないかと感じた。普段の練習からお互いの技のかけ方や改善点をアドバイスするなど、工夫するよう促すことも必要であった。球技などと違い、客観的な数字等で生徒に違いを示すことが難しかったため、授業のはじめや次時の予告等で評価する内容を伝えることも必要であったのではと感じた。今後も授業実践を通して、生徒に安全でやりがいを感じさせることができる授業づくりをする中で、より適切な学習評価が実施できるよう研究を続けていきたい。

参考文献

- 〇 高等学校学習指導要領(平成30年告示) 平成30年3月告示 文部科学省
- 〇 高等学校学習指導要領 (平成 30 年告示) 解説 保健体育編 体育編 平成 30 年 7 月 文部科学省
- 〇 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 【高等学校保健体育】 令和3年8月 文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター
- 高等学校保健体育指導の手引き 令和4年1月 愛知県教育委員会
- 高等学校学習指導要領改訂における科目「体育」(入学年次の次の年次以降)の学習評価について 高等学校 保健体育令和5年3月 令和4年度県立高等学校教育課程課題研究 保健体育研究班
- 高等学校の先生のための保健体育科授業づくりハンドブック 〜授業設計力の向上に向けて〜 令和5年1月 神奈川県立総合教育センター体育指導センター

令和 5 年度 県立高等学校教育課程課題研究 「保健体育研究班」 班員名簿

運営委員(班長)	愛知県立内海高等学校	校	長	鈴	木	政	之
運営委員	愛知県立三好高等学校	教	頭	柘	植	知	則
研究員	愛知県立名古屋南高等学校	教	諭	鈴	木	公	基
研究員	愛知県立江南高等学校	教	諭	栂		邦	彦
研究員	愛知県立津島東高等学校	教	諭	荻ク	ス保	吉	隆
研究員	愛知県立稲沢東高等学校	教	諭	小	塚	英	晃
研究員	愛知県立豊野高等学校	教	諭	北	村		剛
研究員	愛知県立加茂丘高等学校	教	諭	服	部	和	茂
研究員	愛知県立豊田工科高等学校	教	諭	船	本	章	人
研究員	愛知県立三好高等学校	教	諭	畑	田	浩	次
研究員	愛知県立幸田高等学校	教	諭	田	中	悠	也
研究員	愛知県立国府高等学校	教	諭	小	林		雄